



2026年度
国際キャリア教育プログラム

国際キャリア教育 事前学習資料集

主 催：大学コンソーシアムとちぎ 宇都宮大学
後 援：(公社) 栃木県経済同友会 (公財) 栃木県国際交流協会、
NPO 法人宇都宮市国際交流協会 JICA 筑波センター
協 賛：(公財) あしぎん国際交流財団
特別協力：宇都宮市創造都市研究センター

目次

(敬称略)

目標とルール	1
はじめに	2
実施要綱	4
プログラム	5
倫理綱領・個別ガイドライン・問題事例	6
「全体講義」との講師の紹介（吉田 一彦）	
今が「事を起こす」時かも！？－自分らしく国際的に活動するためのヒント－	7
分科会 A と講師の紹介（小川 拓矢）	
日本と海外が関わるビジネスの未来について	9
分科会 B と講師の紹介（尾立 素子）	
国際人道支援分野でのキャリア形成とグローバル課題の解決に向けて	11
分科会 C と講師の紹介（梁 鎮輝）	
「共感」から考える多文化共生	14
分科会 D と講師の紹介（吉田 一彦）	
英語が苦手でも英語で国際交流・国際協力していこう	17

●目標とルール

国際キャリア教育セミナーの参加者はルールを守り、目標の達成に向けて励んでください。

目標

- 「働く」とはということなのかについて考える。
- 自分と地域社会や世界とのつながりについて考える。
- 主体的に関わりたい分野を見つけ、今後の学びに向けた“きっかけ”を得る。

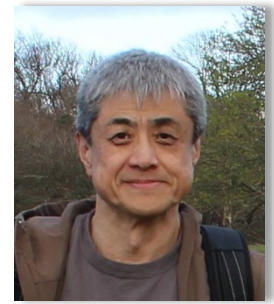
ルール

- どんな意見も臆せず、積極的に発言しよう。
- 一人ひとりが参加者の自覚をもとう。
- 異なる意見を尊重するとともに自分の意見をもとう。
- 自分独自の意見を述べよう。
- 多様な発想を生み出す雰囲気をつくろう。
- 時間厳守で行動しよう！
- 安全、健康に注意をしよう。

●はじめに

国際キャリア教育プログラムに参加される皆様

国際キャリア教育運営委員会 委員長
国際学部国際学科 教授
吉田 一彦



セミナーに参加する皆さん、国際キャリアとは何でしょうか。

大学時代に、何か国際的な活動に関わってみたい、国際的な問題に対応する職場や海外で国際インターンをしてみたい、あるいは今、政府、企業、大学で叫ばれている、「グローバル人材」として自分も働いてみたいと思う方がいるかもしれません。

そのように考えている皆さんのニーズに応えるのが、グローバルマインドを養う「国際キャリア教育プログラム」です。本プログラムは、宇都宮大学国際学部や栃木県の大学が中心になって2004年から毎年実施され、参加者数は過去22年間で合計2451名（宇都宮大学1585名、外部参加者866名）となっています。2020年より、コロナウイルス感染症流行への対応のためのオンライン化によって、海外からの参加も可能になり、ペラデニヤ大学(スリランカ)、ケラニヤ大学(スリランカ)、サラワク大学(マレーシア)、タマサート大学(タイ)、および王立ブノンペン大学(カンボジア)など、本学交流協定校を中心に多数の学生の参加があり、国際交流実体験の場としての学修効果を生んでいます。

このプログラムの科目は、学生が生きることや働くことの意味について考えるという点で共通の「国際キャリア教育」(日本語によるセミナー)と、「International Career Seminar」(英語によるセミナー)、そして、国内や海外の企業、公的機関、NGO・NPOで専門業務を経験する「国際キャリア実習」の3科目、6単位で構成されています。いずれも夏季と春季の休業期間に行われます。2つのセミナーはどちらも3日間の集中講義形式で、共通テーマを「グローバル化時代の地域とキャリア」とし、「地域からのグローバル化(Globalization)」、「地域のグローバル化(Glocalization)」の2つの柱を立て、国際ビジネス、国際協力・国際貢献、多文化共生と日本、異文化理解・コミュニケーションの4つのテーマで分科会を構成します。各分科会では、その道のプロの専門家や講師を揃えています。一方、総時間数80時間で行われる「国際キャリア実習」は、国内・海外の魅力的で個性的な研修先を用意しています。3科目すべての履修を勧めますが、1つか2つを選択して受講することも可能です。

「国際キャリア教育プログラム」は、毎年宇都宮市や栃木県内だけでなく、全国から優秀な大学生、社会人が多数参加します。皆さんもこのプログラムに参加して、国際キャリアについて一緒に学び、国際社会や地域社会への「キャリアパス」の可能性を探っていきましょう。

最後に、本プログラムは、栃木県からの支援を受けて、大学コンソーシアムとちぎとの共同事業として企画しましたが、その実施に際しましては、(公社)栃木県経済同友会、(公財)栃木県国際交流協

会、NPO 法人宇都宮市国際交流協会、そして、J I C A筑波センターからご後援をいただきました。
また、(公財) あしぎん国際交流財団からはご協賛、宇都宮市創造都市研究センターからは特別協力を
いただきました。ご関係の皆様からの多大なご理解とご支援に対し、主催者を代表して、厚くお礼申し
上げます。

●実施要綱

- 1) 科 目 名 : 国際キャリア教育 2026
- 2) テ ー マ : グローバル時代のキャリア形成を考える
- 3) 日 程 : 事前指導 : 2026年7月22日(水) 18:00-19:30
セミナー : 2026年9月19日(土) ~21日(月祝)
- 4) 実施形態 : Zoomによるオンライン授業
- 5) プログラム : 5頁を参照
- 6) 参加定員 : 50名
- 7) 参加費 : 無料 ※ネットワーク通信料等は自己負担となります
- 8) 問 合 せ : 国際キャリア教育プログラム 事務局
宇都宮大学 峰キャンパス事務部国際学部係 (5号館C棟1階) 内
担当 : 佐藤
<所在地> 〒321-8505 宇都宮市峰町 350
<問合先> TEL: 028-649-5172 (直通) FAX: 028-649-5171
E-mail: kokuca@a.utsunomiya-u.ac.jp

●プログラム（敬称略）

事前指導（7月22日 水曜日）

時 間	内 容
18:00～18:45	受付、全体会事前指導
18:45～19:30	分科会事前指導

セミナー1日目（9月19日 土曜日）

時 間	内 容
09:00～09:30	受付
09:30～10:00	開講式・オリエンテーション
10:00～10:30	アイスブレイク
10:30～12:00	全体講義
12:00～13:00	昼食
13:00～14:40	パネルトーク「グローバル時代におけるキャリア形成について」
14:40～15:00	趣旨説明（分科会および全体発表のプレゼン方法の説明など）
15:00～17:30	分科会 1
	分科会 A「国際ビジネス」 講師：小川 拓矢
	分科会 B「国際協力・国際貢献」 講師：尾立 素子
	分科会 C「多文化共生と日本」 講師：梁 鎮輝
	分科会 D「異文化理解コミュニケーション」 講師：吉田 一彦

セミナー2日目（9月20日 日曜日）

時 間	内 容
09:00～12:00	分科会 2
12:00～13:00	昼食
13:00～15:30	分科会 3
15:30～16:30	分科会 4（分科会まとめ・中間発表準備）
16:30～17:30	中間発表
17:30～18:30	分科会 5（発表準備）

セミナー3日目（9月21日 月曜日）

時 間	内 容
09:00～10:30	発表準備
10:30～12:40	全体発表
12:40～13:30	昼食
13:30～14:30	ふりかえり
14:30～14:50	閉講式

●倫理綱領・個別ガイドライン・問題事例

1. 国際キャリア教育プログラム倫理綱領

本プログラムの関係者は、以下の原則に従って行動します。

- ① その活動において、常に基本的人権と個人の尊厳を尊重します。
- ② 国際学部並びに本プログラムの教育目標の実現に資する教育を行うために、改善と向上に努め、学生の自発的な学習を支援します。
- ③ 学修目標を明確に示し、学生への対応や成績評価などの学生指導全般において、公正を確保します。
- ④ 個人情報保護に最大限の注意を払います。

2. 倫理綱領に基づく個別ガイドライン

以上の倫理綱領に基づき、特に以下の点について配慮をお願いいたします。

- ① 人種やジェンダー、言語、宗教、国籍、社会的背景、年齢等が異なる多様な参加者で構成されているプログラムであることに留意しつつ行動します。
- ② 食事や信仰生活を含む生活様式を尊重し、可能な限り対応します。
- ③ ハラスメントに該当する行為は決して行いません。
- ④ ハラスメントに関する情報を得たり相談を受けた場合には、放置せずに対応します。
- ⑤ 参加者による主体的な学びを尊重し、その提案や意見を積極的に取り入れます。

3. 具体的な過去の問題事例

(事例にある「参加者」とは、講師、スタッフ、学生等の参加者全員を意味します。)

事例 1) 国籍による差別発言

ある参加者から「A 国人は物を盗む」といった国籍による差別的な発言があり、その国籍を有する他の参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

事例 2) ジェンダーや多様性への配慮を欠いた発言

ある参加者が、男性的な服装をしている女性の参加者に対して、「いい歳なのだから、もう少し女性らしくしないと」とジェンダーに関する配慮に欠ける発言があった。その結果、トランスジェンダー¹であるその女性参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

事例 3) ハラスメントに該当する行為や発言

ある男性参加者が懇親会で他の参加者に酒を飲むようにしつこく勧め、男女問わず「付き合っている人はいるのか」等と質問をして無理に答えを聞こうとしたり、女性の参加者に対して酔っ払いながら「肩をもんでくれ」と頼んだりした。

事例 4) 主体性や協働を認めない教育

分科会において講師が一方向的に講義を続けたり、一部の参加者のみが発言を独占する事態が発生した。その結果、学生たちが主体的に協力しながら行う議論や全体発表準備のための作業時間を、十分確保することができなかった。

事例 5) 許可を得ないで行う個人情報や写真の使用

ある参加者が、他の参加者の連絡先などの個人情報や撮影した写真を、相手の許可なく SNS などを使って公開し、別の目的で利用した。

¹ トランスジェンダーとは、出生時に決定された性別に性的違和（性同一性障害）があり、性別を変えて生活していたり、性別を変えたいと思っている人（性と人権ネットワーク作成パネル、2014年より）。

今が「事を起こす」時かも!?

—自分らしく国際的に活動するためのヒント—

☆講師プロフィール

氏名：吉田 一彦（よしだ かずひこ）

所属：宇都宮大学国際学部 教授、
国際キャリア教育運営委員会委員長

略歴：

日本国東北地方、太平洋岸出身のエミシとヤマトの後裔。東京外国語大学大学院地域文化研究科修了。博士（言語学）。ベアシスト。大学院在学中に国際交流基金日本語教育専門家として派遣され、在カラチ総領事館（パキスタン）とチュラーロンコーン大学（タイ）にて客員講師。学位取得後の2002年に宇都宮大学留学生・国際交流センターに着任。2017年より国際学部教授。2007年よりJICA 青年海外協力隊事務局技術専門委員（日本語教育）。主たる研究テーマは多言語コミュニケーションと外国語学習法。



全体講義の内容

この講義は、参加する皆さんが自分自身の国際キャリアの一步目を踏み出すきっかけになるかもしれません。また、セミナー全体への入り口に位置するものです。

皆さんにとっての「キャリア」とは何でしょうか？この質問にまず自分で答えてみましょう。元の英単語は、Collins English Dictionary（オンライン版）には、1. A career is the job or profession that someone does for a long period of their life.（ある人が長期にわたって行う職業）、つまり、選択対象の「仕事」ということに加えて、2. Your career is the part of your life that you spend working（一生のうちのworkingをしながら過ごす部分）と定義されています。workingは、職業的な活動よりも意味が広く、作品を作ることや、個人的、あるいは、共同の事業なども意味します。となると、単に自分が職業人として活動することに止まらず、自分以外の他者との関係をどう構築するかということや、その他者と共有するコミュニティの中で自分が担える役割とはどんなものか、といったことも含んだものとして捉えられます。講義では、このような、キャリアとは何かについて考え、理解を深める活動をまず行います。

次に、「国際」が付いていますので、自分自身が生まれた国の国境を踏み越えて外へ出ていくことや、国境から外に出てきた人を迎え入れたり、その人と伝え合ったり付き合ったりすることが、必然的に関わってきます。それは、1つの国の中に留まり、同じ国に生まれた人とだけ関わるといふことと本質的に何が違うのか、社会的・文化的・歴史的背景が異なる人たちに接して交流することにどんな意味があるのか、その人たちに自分は何を提供できるのか、その人たちからどんなことを学べるのか、共同作業をしたら何を作り出せるのか、こうしたことについて考えてみる機会となる活動を行います。このセミナーには、

すでに複数の異なる国に所属する人たちが参加しており、セミナー自体が国際的なのだということを意識して取り組んでほしいと思います。

3つ目に、皆さんひとりひとりが、自分の国際キャリアについて考えることや、このセミナーに参加することにどんな意義があるのかを、他の人にも説明できるほどにはっきりとさせ、同じようにこのセミナーに参加している他者と考えを交換し、そして、自分なりの国際キャリアってこんなものであり得るのではないか？というイメージが持てるような活動を行います。

この全体講義での活動をする中で、ぼんやりとでも心に浮かんできたことを手土産に、後に続くパネルトークで人生の先輩たちである分科会講師の先生方の話を聞いて自分自身と比べたり、分科会で新たな学びを得たり、してほしいと思います。

参考文献

この講義のための決まった参考文献はありません。自分らしさに気づかせくれた本がもし皆さんにあるなら、それが最良の参考文献でしょう。ちなみに、私自身に国際キャリアの方向付けをしてくれた本について、以下のエッセイで紹介しています。

吉田 一彦（2024）「信頼を築くための共通語の決め方」宇都宮大学国際学部（編）
『国際学への扉を開く』下野新聞新書

日本と海外が関わるビジネスの未来について

☆講師プロフィール

氏名：小川 拓矢（おがわ たくや）

所属：株式会社ユーユーワールド 代表取締役
宇都宮大学客員教授

略歴：

1973年生まれ。栃木県宇都宮市出身

栃木県立宇都宮東高校、宇都宮大学工学部電気電子工学科卒後、第一電子工業株式会社入社光ファイバコネクタの設計・開発に従事。2008年4月 株式会社ユーユーワールド入社、2025年代表取締役に就任。関連会社5社の代表取締役を務める。



その他

宇都宮大学 客員教授／横浜税関保税会 栃木地区会長／（一社）とちぎニュービジネス協議会 副会長／モンゴル日本研究センター 最高顧問／栃木県日台親善友好協会 理事／ライズ協同組合 代表理事

1. 仕事の概要

「海なし県に「港」を創ろう」をスローガンに海なし県である栃木県で国際物流、総合人材サービスを中心に宮城、福島、栃木、群馬、東京で事業展開。近年新規事業として商品開発、観光サービスを立上げ拡大中。

・ユーユーワールドの国際物流業

栃木県で唯一「通関業」を持ち輸出入代行業務を行う。県内の産業にかかわる製品や部品から県産品までありとあらゆる商品を取り扱う。また、商品や部品の保管から梱包、配送まで一括で行える機能を持ち国内外へ広く対応している。

また、栃木県内の自治体から産品や観光資源を海外にPRの委託事業も行う。

・総合人材サービス業

製造業や倉庫業、事務に対し人材派遣や紹介サービスを行う。また、近年は外国人材サービスも行い仕事のマッチングから日々の生活のフォローも行う。

・商品開発

栃木県産品の海外PR活動の中からヒントを得て自社で商品開発も行う。「ご飯にかけるギョーザ」を発売して11年累計販売個数300万個を超える商品でテレビ、新聞、SNSなどで定期的に取り上げられている。また、宇都宮大学生とともに栃木の伝統料理「しもつかれ」を若者向けにアレンジし「ご飯にかけるしもつかれ」としてリリース。大学生に対し商品開発から販売支援を展開。

・観光サービス

台湾の旅行者を中心にスポーツ体験型ツーリズムプランを作成し集客を行う。プロサイクルロードレースチーム宇都宮ブリッツェンと協力し県内サイクリングツアーを計画中。また剣道、弓道といった日本伝統の武道体験ツーリズムも立上げ中。

2. キャリアパス

1973 年生まれ宇都宮東高校卒業後

1993 年宇都宮大学工学部電気電子工学科入学、卒業研究ではマイクロ波とプラズマに関する研究を行う。

1997 年 4 月 第一電子工業株式会社入社。光ファイバ用コネクタの設計・開発に従事し携帯電話基地局インフラの開発、また、H2A ロケット射点設備の開発にも携わる。このとき海外生産拠点とのやり取りを行いながらグローバルな視点での生産体制による競争力のつけ方を学ぶ。

2008 年 4 月 父が創業した株式会社ユーユーワールドに入社。現場に入りながら国際物流と人材サービスの業務や仕組みを学ぶ。栃木県から県産品の海外販路開拓事業の委託を受け香港、マレーシア、シンガポールなどのバイヤーと毎年商談を行う。その中で商品開発と商品販売ノウハウを学び自社商品「ご飯にかけるギョーザ」を作りヒットさせる。これを機に地域のお土産商品の開発も手掛けるようになる。

2025 年 5 月 代表取締役 就任。観光事業にも着手しこれからも事業拡大を目指す。

小学生向けにバスケットボールのコーチも行いながら地域の高校、大学とも接点を持ち地域で活躍する人材育成も行う。

3. 分科会の内容

海外と接点のある仕事はなにか？

ユーユーワールドが国際物流から海外人材ビジネス、そしてインバウンド対応と業務展開をしていった経緯を元に、皆さんが将来どのように海外とビジネス展開をしていくか描きましょう。またそこで必要な人材像についても一緒に議論しましょう。

4. 事前に調べてほしいキーワード

- 国際物流
- 貿易
- 外国人材
- インバウンド

5. 参考資料等

とくにございません。

6. 事前課題

自身の自己紹介をご用意ください。

(氏名、所属、大学で学んでいること、分科会を選んだ理由、将来の展望)

国際人道支援分野でのキャリア形成とグローバル課題の解決に向けて

☆講師プロフィール

氏名：尾立 素子（おだち もこと）

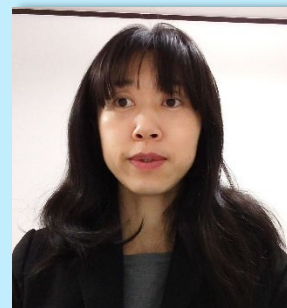
所属：認定 NPO 法人 ADRA Japan

チーフ・プログラム・オフィサー

略歴：

大学で社会福祉学を専攻後、英国サセックス大学大学院 ジェンダー・暴力・紛争 修士号、宇都宮大学大学院 国際学博士号を取得。外国人女性の通訳ボ

ランティア、母子寮での業務経験から、ジェンダー課題について意識するようになった。大学卒業後は、国際協力団体で人道開発支援事業の運営管理を担当してきた。現在は、ウクライナ、エチオピア、アフガニスタン等での人道緊急支援事業の運営管理、性暴力防止の研修活動に取り組む。



1. 仕事の概要

私が所属する認定 NPO 法人 ADRA は、世界 120 カ国に支部をもつ国際 NGO のネットワーク組織です。私は、エチオピア、ウクライナ、アフガニスタンの人道支援事業の運営管理をしています。

エチオピア、アフガニスタンは紛争のみでなく自然災害・気候変動の影響による貧困にも直面しますので、緊急的な食料・保護支援にとどまらず、灌漑・農業・平和構築支援も行い、人々のレジリエンスを高めるように活動を進めています。ウクライナでは、迅速に爆撃からの避難ができるように退避のための支援をしています。その他、ウクライナでは 4 年以上も紛争の影響を受け、心のケアのニーズが増大していますので、オンライン電話・Zoom などによるメンタルヘルス相談支援も行っています。

これらの事業活動が、現地で人道危機下にある人々の生命維持とレジリエンスの回復に役立つように、被災した人々の希望・ニーズを中心においた、事業運営をおこなっています。

その他、国際人道支援を実施するにあたっては「人道支援の質と説明責任に関する必須基準（Core Humanitarian Standard: CHS）」および性的搾取虐待からの保護（Protection from Sexual Exploitation, Abuse and Harassment: PSEAH）などを遵守する必要があります。そのため、私の仕事では、CHS を現地のスタッフに指導するほか、日本の NGO 職員へ PSEAH の研修も実施しています。

2. キャリアパス

まず、キリスト教の中高校に通った際に、マザーテレサのビデオや難民の話を聞くことが多く、国際 NGO の仕事をしたいと思うようになりました。そのため、大学で社会福祉を専攻し、国際協力 NGO のボランティアをして実務を学びました。

その他、生活上の困難を抱える人たちを支援する技術を学びたく、母子寮・障害者の通所施設などでのアルバイトもしました。外国人女性が性暴力被害にあった際に、病院同行するお手伝いもいたしました。そうした経験が、今の仕事でも参考になっています。

大学卒業後は、25年以上国際協力 NGO で勤務をしています。そうした NGO での人道開発支援の実践と同時に、英国の大学院でジェンダー・暴力・紛争について学びました。その後、宇都宮大学大学院では、PSEAH に関する研究を行い、博士号を取得しました。人道開発支援を实践するうえで、支援を求める人々の権利が第一に優先されることが、何よりも大切と考えております。今後も、人道危機下にある人々の希望・思いを大切に、活動を進めていきたいと思っています。

3. 分科会の内容

本分科会では、第1日目に人道支援発展の歴史、人道支援原則、人道支援実施アクター、そして近年の人道課題（紛争、気候変動、人権、ジェンダー等）についての講義を行い、メンバー間での意見交換をします。

2日目の前半では、CHS および人道支援事業の運営管理について説明します。その他、国連、NGO、難民当事者組織などの事例紹介とキャリア形成に関する講義を行います。

その後、グループに分かれ、シリア、ウクライナ、バングラデシュ、エチオピアなどの人道危機について具体的な事例をもとに議論します。その際、各グループ内で「支援者(NGO・国連・行政)」や「受益者(子ども、女性、障害者、高齢者、難民、避難民など)」の役割を割り当て、課題解決会議のシミュレーションを行っていただきます。

3日間の学びを経て、参加者が日々変化する世界情勢と人道危機の現状を理解することを目指しています。さらに、危機下にある当事者が互いに助け合い、困難を乗り越えていけるよう、「当事者主導の回復の過程」を支援者がどのように支えることができるかについて、理解を深めていただくことを目標としています。

4. 事前に調べてほしいキーワード

- 人道危機
- 人道支援原則
- ジェンダーの平等
- 社会的包摂

5. 参考資料等

- 国際協力 NGO センター(2023)「ジェンダー主流化ガイドライン」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/100489425.pdf>
- 外務省「緊急・人道支援の基本概念」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jindo/jindoushien1_1.html
- UNOCHA (2026) Global Humanitarian Overview 2026 [Homepage](#) | [Humanitarian Action](#)
- Council on Foreign Relations (2026) Conflict tracker <https://www.cfr.org/global-conflict-tracker>
- GDACS (2026) Map of disaster alerts <https://gdacs.org/>
- CHS Alliance (2024) 人道支援の質と説明責任に関する必須基準(CHS)
https://jqan.info/wpJQ/wp-content/uploads/2024/08/chs_2024_japanese.pdf

6. 予習用リーディング課題

- 「人道支援とは？日本が行っている支援やわたしたちにできること」

https://www.plan-international.jp/social_issues/humanitarian_aid/を読んで、皆さんに何かできることがあるか、3つ考えておいてください。最初の授業でご意見をお伺いします。

- 「(1)赤十字と NGO の活動のための行動規範」

<https://osayukie.com/webook/booklet1/1jindoukihon/sekijyuji> を読んで、なぜ、このような行動規範が重要なのか、その理由を考えておいてください。最初の授業でご意見をお伺いします。

「共感」から考える多文化共生

☆講師プロフィール

氏名：梁 鎮輝（りょう ちんき）

所属：宇都宮大学 国際学部 助教

略歴：

宇都宮大学国際学研究科にて博士（国際学）を取得。明德義塾中学・高等学校教諭を経て 2024 年より現職。専門は日中比較思想史研究で、150 年ぐらい前の人々は何を考え、どのような社会を目指していたのかを読み解こうとしている。



1. 仕事の概要・研究テーマ

宇都宮大学国際学部で主に中国語や中国文化などの授業を担当しています。研究は日中の近代文学者や知識人を取り上げ、東アジア思想交流の実態を明らかにしようとしています。社会の国際化・グローバル化が叫ばれる現在の状況と同様に、彼・彼女たちは国境を越えて近代化に伴う諸課題に対して深い苦悩を共有しつつ、各自の理想とする社会への構築を目指していた。ある国や地域への知見を深めつつ、学生たちと共に「知の越境」という視点に基づいて日々学習しています。

2. キャリアパス

【広州時代】『クレヨンしんちゃん』と中島みゆきが好きだという理由から高校では日本語コースを選択。しかし、半年かかってもひらがな・カタカナすら覚えきれず挫折していた。日本語を嫌いになりかけながらも学習をなんとか続けた。

【千葉時代】2010 年に来日。成田空港に着いて、都会の空気を感ずる暇もなく、送迎の車に連れられて鴨川という、当時の私のイメージした「日本」とはかけ離れている場所に到着した。大学生活が始まった半年後に 3.11 東日本大地震、福島第一原子力発電所事故が相次ぎ発生し、一時帰国を余儀なくされた。その二カ月後に日本に戻り、ボランティアとして震災地を訪ねた。

【栃木時代 1.0】大学卒業を目前に、進学を頭の片隅に置きながら就職活動を進めていた。最終面接まで進んだ企業に落とされ、在留資格のタイムリミットに迫られ、急遽進学することへ舵を切った。その時、まさかこれから大学で修士・博士課程を合わせて 7 年間を過ごすことになると思わなかった。博士 3 年目に本格的に博士論文をまとめようと思った矢先に、コロナ禍、父の病気などにより学業に専念できない日々が続いていた。

【高知時代】コロナが明け、家庭の状況も落ち着いてきた頃、運よく高知県にある明德義塾高等学校への就職が決まった。職場は想像以上に辺鄙な場所にあり、生活上の様々な不便を感じながらも、山と海の絶景そして明るくてパワフルな高校生たちに癒され、いつのまにか高知を好きになった。植木枝盛の言葉「自由ハ土佐ノ山間ヨリ発シタリ」にあるように、厳しい環境だからこそ高知は自由民権運動発祥の地

となり得たのだと身をもって感じた。仕事をしながら、なんとか博士論文の提出もできた。そうこうするうちに30代を迎え、何か新しいチャレンジと思い、マラソンの練習を始めた。高知龍馬マラソンに出場し、なんとかボロボロになりながら走り切ることができた。

【栃木時代2.0】大学への転職活動がかなり難航している中、母校である宇都宮大学で教える機会をいただき、古巣へ舞い戻った。授業や学内業務をこなしながら、落ち着いて自身の研究ができる道を模索中。

3. 分科会の内容

分科会では、まず現代における多文化共生の目指す意義を確認しつつ、視点を過去へと向け、新しいヒントへの発見につなげたいと考えています。ネット上に散見する在日外国人を排除する言動は、一部の人間の行為と主張に限定してしまえば話はそこまでですが、ただわれわれは流言蜚語が無限に膨張し、関東大震災朝鮮人虐殺事件のような大きな悲劇を生んだ血の歴史を忘れてはいけません。

そのような過ちは、日本だけでなく、すべての国そしていつの時代でも起りうることです。歴史が教える「排除」の愚かさを認識し、一個人として無数の見知らぬ他者の人生を真摯に想像し、彼・彼女たちと苦しみや喜びを共有していくことが多文化共生社会の実現の第一歩となると考えています。その「共感力」をどのようにして培うことができるのか、皆さんの日常的な経験から考えていきたいです。

4. キーワードリスト

共感力／越境文化（文化の越境）／他者性／文学的想像力／オーラルヒストリー／ライフストーリー

5. 参考資料等

<書籍>

李琴峰『日本語からの祝福、日本語への祝福』朝日新聞出版、2025年

三浦英之『涙にも国籍はあるのでしょうか』新潮社、2024年

丹野清人『「外国人の人権」の社会学』吉田書店、2023年

温又柔『私のものではない国で』中央公論新社、2023年

月刊イオ編集部『日本の中の外国人学校』明石書店、2022年

温又柔『台湾生まれ 日本語育ち』白水社、2018年

田中宏『在日外国人：法の壁・心の溝』岩波書店、2013年

リービ英雄『我的日本語』筑摩選書、2010年

<映画・ドキュメンタリー>

『港に灯がともる』（2025年）、『在日ブラジル人弁護士が見たニッポン』（2023年）、『福田村事件』（2023年）、『鬼が笑う』（2022年）、『マイスマールランド』（2022年）、『ファミリア』（2022年）、『ワタシタチハニンゲンだ』（2022年）、『僕の帰る場所』（2021年）、『WHOLE／ホール』（2021年）、『海辺の彼女たち』（2020年）、『take a picture/あるベトナム人留学生の物語』（2017年）、『あなたを忘れない』（2007年）、『I am 日本人』（2006年）

6. 事前予習用リーディング課題

在日外国人を描く様々なコンテンツ（ノンフィクション・フィクション問わず）を手掛かりに、「外国人として日本で生きること」について自由に想像してみてください。そして自身の思ったことをなるべく丁寧に言語化し、分科会の際に語ってもらいます。

英語が苦手でも英語で国際交流・国際協力していこう

☆講師プロフィール

氏名：吉田 一彦（よしだ かずひこ）

所属：宇都宮大学 国際学部 教授

国際キャリア教育運営委員会委員長

略歴：

全体講義講師プロフィール参照。



1. 仕事の概要・研究テーマ

一般言語学と外国語教育学を専門とする宇都宮大学国際学部の教員です。専門研究において強い関心を持っているのは多言語コミュニケーションで、パキスタン、タイ、マレーシア北部、セネガル、キルギス、アイルランド、ベルギー、フィリピン北部、スリランカなどの多言語使用地域で調査をしてきました。また、英語による教育と取り組んでおり、授業の半分は英語でしています。24年間、宇都宮大学で教師をしながら、15を超える国出身の学生を自分の研究室に受け入れ、論文指導をしてきました。それから、約15年間、政府の国際ボランティア事業である JICA 海外協力隊（日本語教育）の選考や研修や活動サポートの仕事をしています。私自身も日本語教師です。世界が、そして、人間が私たちの想像を超えて多様であることを知り、それに驚かされ続けていられることが、私の仕事のおもしろさであり、意義でもあります。

2. キャリアパス

18歳のとき、将来の仕事に役立てるために法律学を選び、大学に入って熱心に学び始めました。しかし、法律について知れば知るほど「社会正義」という概念が自分の中で曖昧なものになっていき、それとともに、法律が何通りにも解釈できる言葉として書かれていることが気になり、言葉自体に関心を持つようになりました。法律学の勉強を止めたので、大学はぎりぎり卒業したものの、何の得意分野もない20代半ばの自分には将来の展望などまったく見出せませんでした。そして、言葉に対する関心が強まりつつも、自分にとって本質的な音楽に関することで言葉の上での誤解を受けたためコミュ障になってしまい、自分が唯一できる母語の日本語ですら話が通じないうえに、世界のほとんどの人と話を通じさせる手段がないという自分自身の孤立した立場に我慢がなくなりました。そして、外国語を学ぶために国を出ることに決めました。

そんなとき読んでいたフランスの冒険小説（ル・クレジオ『逃亡の書』）に見つけたのが「風景をむさぼる、それこそぼくに必要なことだ」という言葉です。その一節に背中を押されて留学したのが、私を知る人が誰もいない南フランスのモンペリエ、幸運にもその当時で140の国籍の人が住むと言われた超国際都市でした。そこで過ごした10か月の間に、30か40ほどの異なる国出身の人々と付き合い、ここま

で40年以上使い続けているフランス語を身につけたほか、今の専門につながる言語学の勉強も始めました。帰国の翌年に、言語学専攻に学士入学し、大学院に進学してからは、略歴にあるとおりです。

英語については、フランス留学中に母語話者の友人たちと出会い、友人と先生を同時に得たことが自分を大きく変えました。これまでで最も効率よく上達できたのは、間違いなく50代。60代にはもっとペースを上げようと企んでいます。

3. 分科会の内容

分科会は日本語で話しながら進めます。参加する皆さんが現時点でできることや、やってみたいコミュニケーションがどんなものかの確認から始め、国際交流や国際協力のための各自の英語のニーズを明確なものにします。

次に、自分の専門分野から、1) 本質的なコミュニケーション手段が音声言語であること、2) それをふまえて学習方法をどう改善すべきか、3) 英語の意識的な使い始め方、4) 自分の用事を少しずつ英語でしていく方法、などについて情報提供します。

身につけることにした英語表現を声を出して練習し、コミュニケーションのシミュレーションを時間が許す限り繰り返し、講師からフィードバックしていきます。

最後の発表は、他の分科会とも共通ですが、分科会の活動によって皆さん自身ができるようになったことと、学び終えた自分のアクションプラン（つまり、セミナーを終えた自分は次に何をするのか）を全体に向けて共有するものになります。

進め方や活動方法の詳細については、皆さんのニーズを分析したうえで決めます。

4. 事前に調べてほしいキーワードのリスト

- 共通語と標準語
- CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）
- 第一言語（Language 1）と第二言語（Language 2）

5. 参考資料

瀧野 みゆき（2024）『使うための英語—ELF（世界の共通語）として学ぶ』中公新書（自分自身が英語をどう使っていこうかと考えるヒントがあります。）

塚本 亮（2021）『ネイティブなら12歳までに覚える80パターンで英語が止まらない!』高橋書店

中井 俊樹（編集）（2009）『大学生のための教室英語表現300』アルク

吉田 一彦（2024）「信頼を築くための共通語の決め方」宇都宮大学国際学部（編）『国際学への扉を開く』下野新聞新書

6. 予習用課題

セミナー当日までに、以下の図書の中から1冊選んで、通読しておいてください。そして、分科会で選んだ本がどのように自分に役立ったかを簡潔に報告してください。本の選び方や貸し出しの相談は、講師へのEメール(ysd@a.utsu...), または、事前指導のときに。

岡本 浩一(2002)『最強の英語上達法』PHP 新書

塩田 勉(2001)『おじさん、語学する』集英社新書

竹内 理(2007)『「達人」の英語学習法』草思社

白井 恭弘(2008)『外国語学習の科学 第二言語習得論とは何か』岩波新書

白井 恭弘(2025)『新版 外国語学習に成功する人、しない人——第二言語習得論への招待』岩波科学ライブラリー

リーディングではないもう1つの課題：

英語で話してみたい人物を1人決め、自分のことをその人が覚えてくれるような1分程度の英語の自己紹介を用意してください。自己紹介する相手の人物は、実在の人物でも、想像上の人物でも、歴史上の人物でもかまいません。「ガザから救出された孤児」のような特定のタイプの人に対して、というのでもかまいません。

事前学習資料集のファイルは右の QR コードからダウンロード可能です。



2026 年度国際キャリア教育セミナー
「国際キャリア教育」事前学習資料集

発行日：2026 年 7 月 1 日

発行：宇都宮大学 国際学部

〒321-8505 宇都宮市峰町 350

TEL: 028(649)5172 FAX: 028(649)5171

E-mail: kokuca@a.utsunomiya-u.ac.jp

学部		学科	
学年		氏名	